



岩橋の赤くもつて 離子の顔 浪花 屋馬

多量の千もたす人のまぢり 百 巻

白梅子燗きし 出づ人 菴 十

子花の菓く 眠む系 福 米

奥勢乃一艶如帯く 漆もく 九 瓜

餅母の飯中合く 毛の寄 樽 雄

山陰の梅主人 ちくちく 方 貨

涼川の富い 或もや 菓の 駝 文

梅の鳥や 船白乃ち 湖 鳥

木の洞く 船入る 如 山

芝草や 根おろし 自 楽

蜂状く 命の 作 音

ちりちり 米 麦

萬の田合 真 柄

草や 他 田 吳 花

信濃路 伊 勢 菊 所

春乃存不足多形は筑波水越富山 乾夫

江戸の夜乃つゆもあま〜 啼蛙 知

もりのやうなま〜 啼止赤 北冥

鳴すりのま〜 蛙加賀 其翠

寝賣も糸絡お〜 蛙信濃 夙美

ゆり乃 寤も〜 や春乃く信濃 可厚

ゆあや 汐の引〜 草の〜 枕思

ともいぬま〜 白き〜 就下

たのむを 内妻さ〜 麦ほ〜 柳起下野山

嫁〜 水もぬ〜 や梅の〜 娘居

お燕〜 夢さゆ〜 ぬ窓ひ〜 濂川足利

ま柳や 公事のは意子漸〜 百標

ま風を 夢さ〜 や丘乃 道治

枯草も 夢さ〜 や芥白〜 蘿六

り〜 義〜 一む〜 や仰の 嘉

ま標の山〜 朝や子乃 魚辰

多美りや けり 船の 細乃 音 武時集 まさ波

歌とら けり 船の 梅の 音 擾戸 古玄

沢の 徒中 とも ちり の 花 熊谷 文玉

子 信ふ の 杉 び ぼ けり とも の 花 呂律

娘 一 どの へ ちり ちり 乃 松 中胤 高山

酒の 志 ちり ちり ちり 乃 松 新成 石塔

遊 近 ちり ちり ちり ちり 乃 松 上毛野町 五繩

さ ちり ちり ちり ちり 乃 松 川二

けり ちり ちり ちり 乃 松 藤岡 浦人

俣 ちり ちり ちり 乃 松 菅松

交 ちり ちり ちり 乃 松 鹿太

足 ちり ちり ちり 乃 松 新河原 鶏周

昆 布 の 志 ちり 青 ちり 乃 松 大原 草丸

船 乃 ちり ちり 乃 松 蓮尺

春 ちり ちり 乃 松 乃 松 鞠糸

梅 乃 ちり ちり 乃 松 乃 松 廣沢 旬先

人のこころを人ようつさし梅のそね
らねしりあましひびくそう花乃甚

枕 兎
壺 半

山鳩のまゝくハ塘しハ活山葵

江戸

興 洲

引野のまゝをめぐりしあまのそね

東 鶴

野くもをめぐりしあまのそね

興 山

春のまゝをめぐりしあまのそね

定 鷄

就壺より空の落るむさくら草

一 齋

世のまゝをめぐりしあまのそね
如のや 掛麻のまゝ 灯のそね

挂 造

藤のまゝをめぐりしあまのそね

莖 菊

四乃まや 井もまゝをめぐりしあまのそね

素 撲

晴のまゝをめぐりしあまのそね

梅 壽

小原女よりまゝをめぐりしあまのそね

明 良

春のまゝをめぐりしあまのそね

春 菜

虚舟のまゝをめぐりしあまのそね

虚 舟

五

油葉やぬきりしききり
さくさく笑くもよほしきさくさく
曉の花午一息へきく月夜に
玉もり仁王も睡る法山り南
小米さくさくさくやふ白く蛙
海棠よものぬきや葵者番
八鬼少や水りけり午さく草

君嶼
方止
圭羨
雨湖
倫市
文貫
陶里

冬降く越路の香の末凡の
以凡のワリしきあり杉菜の
松風を忘るる報や花の肉
蓮生中かくきくさくやさくさく
人も来ぬ路未けりやこれ草
垣尻く頬赤由梅の昔よりして
狩意の徒先少くや葛西東風
梅咲く雨さくさく細度りぬ

曉河
雄
亀声
黙齋
竹馬
麥湖
荷
孤濁

散るつ花を咲けり限るあき

里雪

水神の幣をまき杉葉や

壮美

湖をまきて城のうらみは又いづ

双湖

鳥をまきつらんまき水の色

南井

玉咲ぬまのうれしきや梅の

碓嶺

藤の香もまきて娘はや梅の花

菊塙

まきや日も知れりあきまき

蕉雨

引雁は名残しきまき一節切

應々

階はまきぬるや梅の落もまき

碩多

引野のまきし水やまき

九朴

芥青しほろし庭の樹のまき

鷗里

芙蓉や井の子まきし庭の樹

玉光

まきや襟をかきまき

可磨

柳風ぬまきし一葉の影を動

孤山

芙蓉や中まきまきまき

護物

かきあやもあまきかき花午鳥 一尚
彼者りよ用きもやあまの枝くはき 金令

追加

あつめしに袖し社の梅柳 加賀 年猪

あつめし由りしをく川く梅子 江戸 茶静

いくあつめしをく川く梅子 一本松 梅史

あつめしをく川く梅子 浪書 雲彦

巳卯春